

報告事項エ

鳥取県立美術館フォーラム（県立美術館と共に歩む中部地区の集い）
の開催について

鳥取県立美術館フォーラム（県立美術館と共に歩む中部地区の集い）の概要に
ついて、別紙のとおり報告します。

平成30年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

鳥取県立美術館フォーラム 県立美術館と共に歩む中部地区の集いについて

平成30年12月20日
博 物 館

より多くの県民に美術館づくりへの関心を高めていただき、みんなでつくる「県立美術館」を実現させるため、中部地区の官民56団体による「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」と共催で美術館フォーラムを開催しましたので、その概要を報告します。

記

日 時	平成30年12月15日（土）午後2時から午後4時50分まで
場 所	倉吉未来中心 小ホール
参加者	約350名
主催等	主催：県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会 共催：鳥取県、鳥取県教育委員会
概 要	<p>①基調講演：「美術館から感性を磨く」 講師：蓑 豊 氏（兵庫県立美術館館長・金沢21世紀美術館特任館長）</p> <p>②パネルディスカッション：「作ろう！支えよう！みんなの県立美術館」 コーディネーター：佐伯 健二 氏（協議会応援団部会長） パネリスト：〈高校関係〉 伊東 寛敏 氏（版画家・高校教諭） 〈大学関係〉 前田 夏樹 氏（鳥取短期大学准教授） 〈子ども親世代〉 福本 奈美 氏（弁護士） 〈近隣地域住民〉 吉田 圭子 氏（株式会社ヨシダ(BY ヨシダ)会長） 〈美術愛好家〉 井上 裕貴 氏（倉吉博物館協会理事、百花堂委員会副会長）</p> <p>③大会アピール：「作ろう！支えよう！みんなの県立美術館」 読上げ：知久馬 麻理氏（三朝温泉旅館協同組合おかみの会 会長）</p> <p>④美術館紹介パネル展示コーナー 本県の美術館整備基本計画の概要と、最近整備された国内の主な美術館7館について、コンセプトや建築デザイン等を紹介。 〔兵庫県立美術館、神奈川県立近代美術館葉山館、金沢21世紀美術館、青森県立美術館、大分県立美術館、富山県美術館、大阪中之島美術館〕</p>

主な意見等

① 基調講演：「美術館から感性を磨く」

ご自身の経験や国内外の事例紹介から（倉吉市と同規模の人口4～5万人の小さな街での取組も含め）、「美術館が街を変える」事例や「子どもたちの感性を磨く」ことによる学力向上への効果など、様々な視点での示唆をいただいた。

思いを持って動かすのは人であり、10年後の未来を見据え、ビジョンを持ち動けば成功すると地域への激励をいただくとともに、開館までに「わくわくドキドキさせる仕掛け」をやり続ける取組の大切さや人を集めるためのボランティアや資金集めも開館してからでは遅いと、熱のこもったご助言をいただいた。

○美術館が街を変えていく、街が元気になる

- ・大阪市美術館で日本初のフェルメール展を開催した際、60万もの人が来て周辺の天王寺の様子が変わった。美術館が街を変えていくことを実感した。
- ・兵庫県立美術館から市立動物園までの南北通りを「ミュージアムロード」とし、最寄り駅には「美術館前」と副名を付けてもらい、電柱の地中化、周辺建物のカラーリング、オブジェの設置等を行った。（周辺の美術館や公園、お店にも立ち寄れる賑わい創出）

○美術館で子どもたちの感性を磨く

- ・大英博物館では、古代エジプトや恐竜の展示室で子どもが一晩過ごすプログラムを実施。新美術館でも、子どもがワクワクするようなプログラムを作してほしい。子ども時代に美術館を体感した子供は大人になって必ず自分の子どもを連れてくる。
- ・金沢 21 世紀美術館の開館前には、子ども達に美術館の楽しさを教えなければ美術館が無くなる危機感を持ち、子供目線で美術館を造り（建物内部が見える、明るい空間、触ったり音を聞いたりできる作品を置く等）、開館初年度には5千万円かけて市内の小中学生(4万人)を全員招待した。子どもたちは年に何度も来ていて、本物の美術に触れ感性を磨かれた石川県の子どもたちは、全国学力テストでもトップになっている。

○建築も大切な要素

- ・パリのポンピドゥーセンターや、スペインのビルバオ・グッゲンハイム美術館、金沢 21 世紀美術館等の例から、街の人もわくわくするような建物であることも大切な要素。みんなが驚くような建物であると良い。ギリシャ神殿のような美しく敷居の高い美術館ではなく、トレジャーボックスではなく気軽に立ち寄れる公共の広場のような美術館をつくってほしい。
- ・アメリカのコロンバスという小さな街では、地元企業の支援で有名建築家が学校・図書館等の設計を行いユニークな建物が次々と生まれ、「子どもをここで育てたい」と優秀な人材が集まってきた。さらに、この街で感性を育てられた子どもたちから、多くの優秀な人材が輩出されている。

② パネルディスカッション：「作ろう！支えよう！みんなの県立美術館」

「県民みんなの美術館」づくりに向けて、特に地元中部地区の住民が、どのように「自分事」として主体的に関わり支えていくのか、様々な立場のパネリストの意見交換が行われた。

○美術館への希望や夢など

- ・美術館を誇れる施設として立ち寄ったり来客を案内したくなる要素を多く作ってほしい。
- ・子どもにとって楽しい場所になり、走り回り声を出せる室内公園的な空間があると良い。
- ・作画技法の解説や制作過程の動画紹介や制作の様様をライブで見られるといい。大人とは仕分けたギャラリートーク設定があると高校生は参加しやすい。
- ・学校から生徒を連れて行けるように送迎バスがあると良い。
- ・デジタルアートやアニメなどのサブカルチャーの展示があると高校生等は関心を持つ。
- ・県立美術館が拠点的機能を果たし、県下のミュージアムネットワークを展開して欲しい。

○美術館づくりへの関わり方

- ・自分たちがやれることがあればボランティアとして関わりたい。
- ・限られた予算でどんな美術館になるのか、必ずしも自分たちが決められることではないが、注視していくことが大事。
- ・グラントワではボランティア活動が定着するために10年をかけたが開館まで6年しかない。
- ・美術館に絡めた自主的な活用を勝手にやっていいものかと悩んでいた。
- ・学生に美術館のことを知ってもらうため、短大でカウントダウンボードづくりなど学生と盛り上げていきたい。
- ・自分が役に立てることを無理せず楽しくやっていきたい。

なお、当日参加者にボランティア募集が行われ30名近くの参加意向が寄せられた。

③大会アピール：「作ろう！支えよう！みんなの県立美術館」

- ・美術館は格式高いものという固定概念があるが、日常的に普段から楽しみながら利活用できることを望む。
- ・自分たちが望む美術館をつくりあげていくためには、県民が知りたい、関わりたいと思う動機づくり、自分たち自身の感性を磨いていくことが必要。
- ・2024 年度開館の県立美術館について、子どもから大人まであらゆる人が関わり、つくり上げていくこと、互いを尊重し楽しんで利活用し支えていくことを確認し、大会アピールとする。